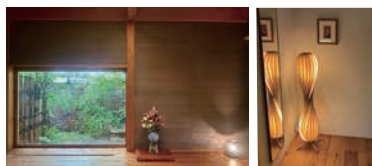


Topics 1 居心地のよさの秘密探訪

編集部
D.S.

とある有名な工務店のモデルハウスを訪れたとき、居心地のよさに心が奪われました。あまりの居心地のよさにソファで昼寝をしてしまいそうになりましたが、同行した同僚もその魔法にかかっていた様子。その居心地のよさの秘密を探るべく、訪問時に撮った写真を見返しながらその魅力の謎解きをしました。

まず目に飛び込んできたのは、木製の窓から見える美しい景色。窓枠が絵の額縁のように景色を引き立て、外の風景がまるで絵画のように見えました。建物は周辺の景色を優先して斜めに配置されており、自然光がたっぷりと部屋に差し込むよう工夫されています。



この自然光が部屋全体を明るくし、リラックスした気分にさせるのです。照明は暖色系に統一され、温かみのある雰囲気演出されています。北欧系のデザイン照明によって洗練された空間が一層引き立てられ、インテリアも心地よさが追求されています。家具や装飾小物が巧みに配置され、自社オリジナルのダイニング丸テーブルが空間全体の印象を柔らかくしていました。さらに、天然木の香りが漂い、まるでアロマセラピーのようなリラックス効果も。壁には「モイス」という自然素材が使われ、調湿効果のおかげで空気が澄んでいるのを実感しました。

これら多くの要素が絡み合い、居心地のよさを実現しているのだと謎が解けました。住んでいる方は心理的な安心感や満足感を得て、きっと日常生活を豊かにしていることでしょう。訪問を機に、このような感動と居心地のよさを提供できる住まいづくりに貢献したい思いが一層強まりました。

Topics 2 四季を感じる

編集部
S.K.

我が家では数年前からグリーンカーテンを作っています。朝顔やきゅうりから始めましたが、花だけでは寂しいし、きゅうりは母親が畑をやっているからたくさんくれるので、食べきれなくなってしまう。そこで他に良いのはいかなあっと色々探して、最近は毎年同じものを育てるようになりました。

1つ目はパッションフルーツ。これは、奥さんが食べたいと言うので買ってみましたが、酸っぱさが癖になるし、なかなか普段食べないフルーツなので家で出来るのは嬉しい。しかも、秋に家の中に取り込むと冬を越せるので、毎年大きくなってどんどん実がなってきました。そろそろ家の中に入れるのが難しくなってきたので、少し小さく刈り込もうかと検討中。。2つ目はころたんという小さいメロン。マスクメロンのような網目模様が入った小さいメロンですが、プランターで育てるので、3個程度しか出来ません。でも、なかなか甘くて美味しいです。小さいので食べきりサイズなのも嬉しいポイント。

3つ目はゴーヤ。これはグリーンカーテンの定番ですが、母親が畑で作っていないので、自分で作っているだけ。。この苦みが好きです。最後はオカワカメです。つるがどんどん伸びていくので、収穫し忘れると手に負えなくなるくらい。ツルムラサキのような感じなので、おひたしやお味噌汁に入れて食べています。冬場は枯れてしましますが、そのままにしておくと5月~6月ぐらいに勝手にまた生えてきます。

このように、暑い時期にはグリーンカーテンを育てて見ても体感も涼しさを感じられるだけでなく、食べることもできるという嬉しさを噛みしめています。これも郊外の田舎に暮らしている特権だと思い、四季を感じることを楽しんで暮らしています。



ころたん

News
letter

建築家とつくる家
個性をカタチに、賢い家づくり。

2024.09

R+house 御殿場

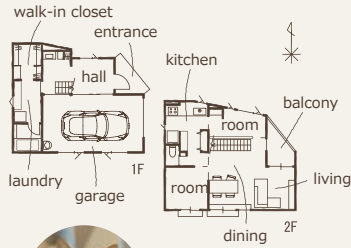


四季を楽しめる 旅館のようなお家



好きなモノに囲まれて暮らす

北と東に高低差のある2方向道路に接した扇形の敷地。北道路の向こう側には浅川の眺望が広がっており、暮らしに取り込むことは今回の敷地では絶対的な条件。クライアントご夫婦は職住一体で仕事や羊毛紡ぎや織り、車いじりなどの趣味や猫との共生、植物に囲まれた暮らしを愉しめるようなプランをご要望されました。1階は将来店舗としても利用可能なように玄関・ホール⇄ガレージのオープンなプランとなっています。



一日のうち一番滞在時間の長いワークスペースからは穏やかな日常の景色を楽しめる



1. 勾配天井による伸びやかな2階の居住空間は、植栽やキャットウォークなど好きなものに囲まれた暮らしを実現する。猫がのびのびと暮らせる仕掛けも満載。
2. 2階の北窓から景色が広がる。順光なので時間や季節を問わず美しい風景を見ることができ。
3. 扇形の敷地形状に合わせたフォルムが特徴の外観。北に開けた周辺環境に呼応して素直に開口を設けている。
4. 将来を見据えてインナーガレージに接客スペースを想定したスペースを設けている。
5. 1階インナーガレージには愛車を飾る。2階バルコニーは暮らしながら植栽で装飾することで、自随しと街の景観に配慮する予定。



将来1階を店舗として利用することを想定したファサード



建築家プロフィール

ナカノ ハジメ Nakano Hajime

1971年 和歌山県紀の川市生まれ
 1994年 名城大学理工学部II建築学科卒業
 1994年~ 設計事務所勤務
 2000年 キューブ建築研究所パートナー
 2005年 一級建築士事務所兼工舎 設立
 趣味 プラモデルづくり、アニメ



Architect Column

建築家 おススメ “ケンチク”

民家の起源？



上：移築・再建後の母屋外観。屋根が大きく軒が低いことから堅穴式住居を想起させる。
 右：「にわ(土間)」から「おもて(客間)」をみる。割り竹張りの垂れ壁がBox in Boxの様にみえる。



memo
 Architecture: 箱木家住宅
 Location: 兵庫県神戸市

古建築ツアーと銘打った建物見学の旅を15年以上続けている。この年は東向きに立つ阿弥陀三尊像に夕刻の西日が差し込む後光で有名な浄土寺浄土堂に向かう途中、箱木家住宅に立ち寄った。箱木千年家とも呼ばれる日本最古の民家である。紙面の都合もあり詳細は他に譲るが、日頃現代建築に関わる私がこの住宅に衝撃を受けたのは、茅葺き屋根による圧倒的な高さや勾配、軒の低さからなるプリミティブな外観、そして半分程がにわと呼ばれる土間で構成された間取りである。

素材による形態の決定方法と、生活様式によるプランニングから当時の様子を想像し唸りながら見学したが、それらは昨今の生産技術の進化や災害・パンデミックの影響による我々の生活様式の変化と共に現代の住宅を考える時にも当てはまる。先人の知恵はいつも偉大である。

長谷部 勉 Hasebe Tsutomu

有限会社 H.A.S. Market
 趣味: ゴルフ・車



建築家 おススメ “ライフ”

クスノキが紡ぎ出す ナチュラルアロマライフ

我が家にクスノキの1枚板テーブルをお迎えしました。神社でも見かける常緑樹のクスノキは御神木とされ、生命の象徴であり、トトロが榎木としても知られています。木全体から樟脳(しょうのう)の香りを放つため、古来から厄除けや虫除けの役割も担っていたようです。木肌は緻密、耐湿・耐久性に優れ、加工性がよい素材で、テーブルとなってもほんのり樟脳の香りを放ちます。クスノキから抽出したアロマオイルを木片に垂らし、防虫剤としてクローゼットに。水で希釈して網戸にスプレーすると虫除けになります。1本の木は伐採された後も人の暮らしに寄り添い続けます。人間は大いなる宇宙の一部であり、自然のものを見たり香りを感じたりすると心も整うのです。



金子 麻子 Kaneko Asako

一級建築士事務所 無地CRAFT
 趣味: 美術鑑賞(学芸員)・インド哲学・旅行・ヨガ(インストラクター)・アロマセラピー



アロマオイルは多種揃えて日常使っています

左: クスノキの枝葉や根を蒸留して結晶化したものが天然樟脳。木が呼吸しやすいよう天板のお手入れは天然の蜜蝋ワックスで。
 下: 高さを低くしてリビングダイニングテーブルとして使用。生命力溢れる天板に脚はスチールにして軽さを出しました。ベンチは取納できるので、空いたスペースでヨガを。

